

## 保健体育科教師のもつ指導論に関する調査的研究

杉 江 修 治  
深 谷 鎧 作  
水 野 り か  
大 橋 博 明  
三 上 和 夫  
小 峰 総一郎

### はじめに

本調査的研究の問題意識の一端を、はじめにのべておくことにする。

いうまでもなく、「保健体育」という教科は、戦後の教育改革によって誕生した。戦前は、保健ということばも、体育ということばも、使われていなかった。戦前は体操といい、学校衛生といった。体操は教練をふくんでいて、軍隊の要求が無理にもちこまれていたから、体育といういい方は、教練からの解放を意味し、異存なく受け入れられたとあってよい。また、戦前のジメジメした学校衛生というイメージから抜けだすことばとして、保健といういい方も、新しい時代の開始をつげるものだったとあってよいだろう。

とはいっても、保健と体育とが結びついて、ひとつの教科となることについては、それが占領軍の指令によるという事情もあって、必ずしも統一的な理解・見解があったわけではない。保健と体育をひとつの教科とみることには、賛否両論があったし、いまもまだ解決されているとはいえないのである。

保健と体育とが、それぞれの本質に従って統一的な形で教育実践に移され、その実践の蓄積をふまえて解決されていくことが望まれる。保健は保健、体育は体育と、別々にはなればなれになってやっておればよいと考える教師はいない。といて、保健体育科のあり方はこれだと示しうるにはいたっていない。だから、この二つを統一的に考える道は、体育や保健の新しい形での建設、構築に努力するなかで、明らかにしていくよりほかに方法はないからである。

本調査的研究も、そのような保健体育科のあり方をさぐる一つの方途である、ということもできよう。

私たちが課題にしたいと考えていることは、つぎの一点である。すなわち、体育すること、健康を保つこと（保健）を、自己の人間的な要求や権利にまで高めることができる子ども・青年を育てる、ということである。

「豊かな国・日本」の子ども・青年の実態をみると、私たちの課題としていることが、いくらか了解されるとおもう。

たとえば、高層マンションに生まれ育った幼児が、幼稚園に入ってきて、教師をおどろかせるのは、

日陰を好み、日なたをいやがる傾向がある、ということだ。また、砂場に入るのをきらう。ころんで手がでない。疲れやすい子どもたち。味覚が舌でなく目と耳によってやしなわれる食生活の乱れ、ひとりぼっちのさびしい食事。「9歳で糖尿病、12歳で高血圧、高校生にして若年寄」といった、様々な不健康状態が、子ども、青年たちにひろがっている。

それは、枚挙にいとまがない。

むろん、教師の仕事、教育の課題は、そういう現象をあげつらうだけではない。

「先生！ぼく、ブランコこげるようになったよ！みて、みて」といって、小さな胸をはる子どもを育てることである。技を身につけ、技を駆使して体をあやつる、そこに生まれる緊張感、自由、充実感、さらに「できなかった自分」が「できる自分」になったという自己に対する確信、やればできるのだという、未来への挑戦の意欲といったものを、ひとりひとりの子どもに育て、遊ぶことや、体育することや、健康であることを、自分の願いとし、それを要求にまで高める権利意識として定着させることである。

つまり、子どもの体をめぐる否定的現象を「あげつらう」ことでなく、「指導する」ことにこそ、保健体育科の存在理由はある。ただむやみに、「がんばれ、がんばれ」とハッパをかける精神主義でなく、またむやみに闘争心をかきたてたり、体罰をふるったりする鍛錬主義でもなく、「指導する」とはどういうことかを、具体的に、しかも根本的に検討することが求められているのである。

たとえば、ころんで手がでないとなれば、人間と大地との関係を教え、指導しなければ、遊びや体育にはならない。竹馬ののり方、竹トンボのつくり方など、遊びの技術を教えないと遊びにはならない。生き物の手ざわり、握った感じ、泥をぐっと手にぎる自信、といったモノの世界に働きかけていく心（意欲、判断、認識）を育てることからはじめなければならなくなっている。

つまり、体育についていうなら、

1. 身体活動をすることの面白さを、ひとつひとつ指導する
2. 技術の合理的な修得を指導する
3. 自分と友達（自他）の力倆について、その評価の仕方を指導する
4. それら三つの力は、つねに伸びる可能性を、人間だれしも持っていることをわからせる

これが、様々な運動種目の修得をとおしておこなわれる体育指導の観点だとすれば、それは結局のところ、体育文化の修得と身体観の形成ということになるであろう。体の保健をあわせて考えれば、身体文化ということになるわけだが、それらによって、「体をどうみるか、どう考えるか」という、身体観の形成ということになるろう。

体力も、お金で買う時代を反映して、体力をつけるとなると、すぐに自家用車に乗ってわが子をスイミング・スクールにつれていく、スポーツクラブに入れる、エキスパンダーなどの道具を買ってやる。これはおとなのゴルフ会員に通じる発想といってよい。一方では、なわとびとか腕立て伏せとか、せまい場所で、ひとりぼっちで、むりやりにやるという形で、友達と一緒にとか、楽しさ、おもしろさが欠落してしまっているし、基礎体力は、ほんらい普通の生活でのびのびと遊ぶ中で、自然に鍛えられるものだという考え方がない。子どももおとなも、そういう環境、条件のことは、あきらめて

しまっている。あきらめの上に、「スポーツ、健康は、金で買うもの」という考え方が、幅をきかせるようになっているのである。そして、スポーツや健康を「買う」ことを追い求めれば追い求めるほど、おとなも子どもも、業者の宣伝に右往左往することになり、自分を、またおたがい、どんな人間になっていくか、そのために、どんなふうにスポーツや健康を求めるかという、自前の意見や要求を持たなくなってしまうからである。ここに根本的な問題があるといえよう。

学校での保健体育科は、そういう現状をにらんで、その存在理由を追求しなければならない。

「僕も鉄棒ができるようになりたい」とか、「私たちも運動場で遊ぶ権利があるのだ」といった、肉体の要求と権利についての意識が、体の学習、身体活動のなかで用意され、さらにそれが、体についての権利意識にまで深められるようにするのが、体育の意識的な指導だと考えられるのである。

また、保健についていえば、WHOの憲章は、「健康とは・・・病気ではないということではない。なにごとに対しても前向きの姿勢でとりくめるような、精神、肉体、そして社会的適応状態をいう」とのべているが、その点を更に深めて認識させることであろう。

さらに、学校における保健体育指導で注目すべきは、児童、生徒の学級集団、学校集団の指導という点である。戦後、体育においても民主的な仲間づくりが提唱され、グループ学習なども大いにとりくまれた。それは、技能の上達に役立つということもさることながら、前述のような体についての権利意識を育てるために必要とされたのであった。

また、保健に関連して注目しておきたいのは、保健室の養護教諭による保健指導のひとつに、生徒集団の中に保健委員会を組織し、子どもたちの自治活動の一環として、子どもたちの保健活動を位置づけた試みである。これもまた、体についての権利意識を育てる上で、不可欠なものといえてよいであろう。

ともあれ、私たちは、学校での保健体育科のあり方を考える上で、生徒を「学級集団」「学校集団」の成員としてとらえる視点をはずしてはならないであろう。

時あたかも、「子どもの権利条約」が、国際連合、子どもの権利宣言 30 周年にあたる 1989 年 11 月 20 日、国際連合総会第 44 会期において、全会一致で採択され、各国の批准をまつところとなった。

この条約のきわだった特徴は、子どもを権利の享有・行使の主体として把握していることである。従来、おもに子どもは保護の対象として、とらえられていたのであるが、権利の主体としての子どもへと、子どもの権利の捉え方に、質的な発展がみられるのである。

画期的な子どもの権利条約が、わが国においても、一日も早く批准されることを求めつつ、本調査的研究の問題意識の一端をのべた結びとしたい。

## 問 題

われわれは先に、青年の身体文化に関する、大学生を対象とした実態調査を報告した（杉江他 1987）。そこでは、（1）大学生になると、高校生頃に比べて身体訓練や健康増進活動への参加が減少する傾向が見られる、（2）フィットネス、ファッションなどへの興味関心はあるが、実際の参加活

動は少ない、(3) 心身の相関関係の有無、身体と権威主義との相関関係の有無に関する認知ではいずれかに大きく偏る傾向は見られなかった、(4) ファッション性の次元では性差が認められなかった、(5) 自身の身体の外見、動きに対しては、やや不満を示す傾向があり、それは女子で強い、(6) 体育学部の学生は他学部の学生に比べて異なるさまざまな特徴を示し、その特徴は年齢が増しても変化しにくい、(7) 青年個々のもつ身体文化はきわめて多様であり、特定のパターン化はむずかしい、といった結果が見られた。

このような結果には、青年個人の身体文化の形成に社会・文化的要因が強く関わっているという側面を見ることができ、また、(5) のように、青年の自己認知に関する事項では、時代を越えた青年性の反映をもうかがうことができよう。

本研究では、青年の身体文化の形成要因の一端にあると考えられる学校教育、とくに保健体育科の教育の実態を検討することを目的とした。身体活動をその内容の中心としている体育科の授業、健康に関わる知識の習得と態度形成を図る保健科の授業で、生徒に対してどのような働きかけがなされているのであろうか。指導の前提として、教師はどのような生徒観をいっているのだろうか。近年では、いわゆるクラブ活動が生徒の身体活動の上で大きな比重を占めていることは明らかである。しかし、総ての生徒を対象にしていること、また、授業における学習指導こそが学校教育の中心的な役割であり、そこに青年の身体文化形成に関わる重要な機能を期待したいということが、今回調査の場面を授業に限った理由である。

この調査により、青年への意図的な働きかけと青年の行動変化との関係について検討するための示唆的な資料が得られよう。具体的には、高校保健体育科担当教員に対して、「保健科の授業」、「体育科の授業」、「生徒観」の3つの領域について多側面にわたる質問項目を用いた調査を行った。

## 方 法

**被調査者：**高校の保健体育科教師 400 人に郵送調査を行い、209 の有効回答を得た（返送率 52.3%）。回答者の勤務校の所在地は表 1 に示すように、愛知、岐阜、三重の東海 3 県で 83.3% を占め、その他の県は少ない。回答者の勤務校の種別は表 2 に示した。普通高校が 3 / 4 強であり、職業高校の教師は少ない。年齢は、表 3 に示したように 40 代が半数を占め、20 代 50 代は相対的に少ない。性別では 70% が男性であることが表 4 でわかる。さらに、回答者の教職経験年数について、表 5 に示した。15 年から 25 年程度に多くかたまっている。ただ、10 年刻みでまとめると大きな偏りはない。表 6 では体育科のみ担当し、保健科の授業は持たないという教師の比率を示した。担当していない者は 6.7% と少ない。ただし、保健授業に関する調査項目の集計では、保健を担当しない者の回答も用いている。

**質問紙：**質問紙は「保健科の授業」(37 項目)、「体育科の授業」(37 項目)、「生徒観」(22 項目)の 3 領域からなる。各項目とも 4 件法で回答を求める様式である。具体的な項目は後の、結果についての表の中で示す。

**調査期間：**1989 年 1 月。

表1 回答者の勤務校所在県

県名	人数	(%)
愛知	92	(44.0)
岐阜	44	(21.1)
三重	38	(18.2)
その他*	32	(15.3)
無記入	3	(1.4)
合計	209	(100.0)

\*千葉、神奈川、静岡、新潟、石川、福井、滋賀、奈良、京都、和歌山、大阪、島根、福岡の各県を含む。

表2 回答者の勤務校の種別

種別	人数	(%)
普通科	161	(77.0)
工業科	16	(7.7)
商業科	16	(7.7)
その他	9	(4.3)
無記入	7	(3.3)

表3 回答者の年齢

年齢	人数	(%)
20代	25	(12.0)
30代	70	(33.5)
40代	103	(49.3)
50代	11	(5.3)

表4 回答者の性別

性別	人数	(%)
男	148	(70.8)
女	57	(27.3)
無記入	4	(1.9)

表5 回答者の教職経験年数

教職経験年数	人数	(%)
1～5年未満	17 (8.1)	46 (22.0)
5～10年	29 (13.9)	
10～15年	32 (15.3)	83 (39.7)
15～20年	51 (24.4)	
20～25年	55 (26.3)	80 (38.3)
25～30年	20 (9.6)	
30年以上	5 (2.4)	

表6 保健授業担当の有無

担当の有無	人数	(%)
担当している	195	(93.3)
担当していない	14	(6.7)

## 結果

### (1) 因子分析結果

予め設定した質問の3領域それぞれについて、主因子法による因子分析を行い、ここで見いだされ

た尺度に基づく分析と検討を行なった。

**保健科** 保健科の37項目については、固有値1.0以上で3因子が抽出された。第1因子は「指導内容の工夫」、第2因子は「保健科への批判」、第3因子は「保健科の有用性」と命名した。

次に、この結果から3つの尺度を構成するにあたっては、因子負荷量が.35以上のもので、内容的に不整合のないものを採用した。各尺度の信頼性係数は、第1尺度が9項目からなり.782、第2尺度も9項目からなり.767、第3尺度は6項目で.783と高く、信頼性は高い。表7にその内訳を因子負荷量とあわせて示す。

表7 「保健科」関連項目の因子分析結果

	FACTOR1	FACTOR2	FACTOR3	共通性
H 7. 私は高齢者の健康についての解説をしている。	0.66648	- 0.03217	0.02987	0.446117
H 31. 私は医療制度についての指導を生徒にしている。	0.55351	0.04252	0.04262	0.309997
H 24. 私は生徒に保健増進に役立つ情報の集め方を教えている。	0.55090	- 0.07378	0.27998	0.387325
H 33. 私は保健の授業で健康食品について取り上げる。	0.55012	0.10709	0.14173	0.334186
H 4. 私は健康的な美とは何かについて保健の授業の中で話すことがある。	0.50936	0.11510	0.24147	0.331008
H 6. 私は職業と健康の関係についての解説をしている。	0.45232	- 0.13522	0.04378	0.224799
H 19. 私は保健増進に役立つ情報は努めて生徒に知らせている。	0.44752	0.07301	0.31472	0.304653
H 18. 私は健康保持のための運動を実際に生徒に指導している。	0.41491	0.00852	0.28784	0.255072
H 36. 私は健康と美とは結びつくものとして教える。	0.35651	0.15301	0.21998	0.198902
H 14. 私が今使っている教科書では保健で形成すべき学力と何かが不明瞭である。	0.07744	0.68739	0.05700	0.481752
H 13. 私が今使っている教科書は保健と社会との関わりについての内容が不足している。	0.13842	0.65352	0.06474	0.450441
H 15. 保健の授業では生徒が自分の心理と身体との関わりを考える機会がない。	0.06372	0.60481	- 0.15218	0.393017
H 35. 私が今使っている教科書は保健を前向きに考える態度を生徒の中に形成させようとしていない。	- 0.04391	0.53364	- 0.02739	0.287445
H 12. 保健の授業では生徒が自分の身体と保健の内容を具体的に照らし合わせる機会がない。	- 0.05969	0.50644	0.01247	0.260202
H 9. 私が今使っている教科書は保健と政治との関わりについての内容が不足している。	0.17031	0.46601	0.04385	0.248092
H 21. 私が今使っている教科書は心理学的な内容が不足している。	0.08510	0.40420	0.04568	0.172709
H 34. 保健の指導法の研究は停滞している。	0.00236	0.36769	- 0.01539	0.135438
H 11. 私が今使っている教科書は保健の学習に必要な内容を十分含んでいる。	0.19438	- 0.38942	0.05994	0.193026
H 32. 保健の授業は生涯にわたる健康への態度作りに役立つ。	0.16041	- 0.16318	0.71184	0.559077
H 26. 保健の授業は生徒の健康増進に役立つ。	0.16944	- 0.21155	0.70866	0.575665
H 27. 保健の授業は健全な健康観の形成に役立つ。	0.19907	- 0.28592	0.66281	0.560694
H 1. 保健の授業は健全な身体観の形成に役立つ。	0.14036	- 0.10806	0.63391	0.433216
H 2. 保健の授業は身体の個人差に気づかせるという機会となる。	0.08350	0.12342	0.43586	0.212176
H 8. 保健の授業は生徒の自己理解に役立っている。	0.10296	- 0.13656	0.41140	0.198497
H 3. 私が今使っている教科書の内容は生徒にとって難しい。	- 0.03919	0.27490	- 0.6363	0.081154
H 5. 健全な精神は健全な肉体に宿るという考えは保健の基礎となる考えの1つだ。	0.21312	0.02921	0.15067	0.068973
H 10. 私は健康保持のための運動をするよう生徒に勧めている。	0.22973	- 0.08596	0.12582	0.075993
H 16. 私は保健の授業では最近の健康ブームは批判的に扱う。	0.25169	0.20120	- 0.07372	0.109265
H 17. 健康と環境問題は深く関わっている。	0.04840	0.06095	0.14711	0.027700
H 20. 生徒にとって自分の身体をよく知るということは大切なことだ。	0.01645	- 0.01460	0.18011	0.032923
H 22. 人間の身体は基本的に同じだという考えを持たせる必要がある。	0.25810	0.16178	0.17599	0.123761
H 23. 保健の指導に自信を持っている教師が多い。	0.35510	- 0.32407	0.17631	0.262205
H 25. 保健の授業では教育内容、方法で男女を分ける必要はない。	0.20939	- 0.05580	0.05318	0.049787
H 28. 化粧、服装などは身体に関する意識を高める。	0.21147	0.07311	0.26539	0.120500
H 29. 保健教材に関する知識を十分に持っている教師が多い。	0.32756	- 0.30971	0.18777	0.238472
H 30. 保健の授業は教材の内容の習得が中心となっている。	0.15560	0.12524	- 0.05697	0.043142
H 37. 私は身体の訓練は健康に結びつくものとして教える。	0.22923	0.12678	0.23628	0.124452
	3.191359	3.148379	2.972095	

**体育科** 体育科の37項目についても、固有値1.0以上で3因子が抽出された。第1因子は「指導内容の工夫」、第2因子は「錬成的目標論」、第3因子は「体育科の有用性」と命名した。この結果から3つの尺度を構成するにあたっては、保健科の場合と同様、因子負荷量が.35以上のもので、内容的に不整合のないものを採用した。各尺度の信頼性係数は、第1尺度が9項目からなり.839、第2尺度も9項目からなり.790、第3尺度も9項目で.785と高く、信頼性は高い。表8にその内訳を因子負荷量とあわせて示す。

**生徒観** 生徒観の22項目では、固有値1.0以上で2因子が抽出された。第1因子は「肯定的イメー

表8 「体育科」関連項目の因子分析結果

	FACTOR1	FACTOR2	FACTOR3	共通性
T 20. 運動の力学的特性についての指導を十分行っている。	0.74096	0.19095	0.12428	0.600934
T 21. 運動の心理的特性についての指導を十分行っている。	0.69035	0.27638	0.06831	0.557630
T 31. 運動の生理的特性についての指導を十分行っている。	0.60154	0.19707	0.18558	0.435123
T 34. 体育の授業を通して身体美を考えさせている。	0.57537	0.19865	0.23290	0.424759
T 33. 体育の授業では身体による表現力の形成をめざしている。	0.49546	0.11489	0.28089	0.337575
T 12. 訓練された人の身体の美しさに気づかせる機会が多い。	0.49406	0.18736	0.21321	0.324656
T 22. 体育の指導法の研究はよく行われている。	0.46621	0.11049	0.36519	0.362921
T 28. 体育の授業ではエアロビクスなどフィットネスの視点を取り入れている。	0.39489	-0.02718	0.18420	0.190605
T 9. 競技中の仲間の動きを観察させる機会が多い。	0.38461	0.01772	0.31247	0.245874
T 19. 生徒には身体を厳しく鍛えることを求めている。	0.18211	0.66842	0.01390	0.480137
T 35. 生徒の身体をよりたくましくすることも体育の授業目的だ。	0.09021	0.55732	0.26874	0.390960
T 7. 体育の授業は体力増進に役立っている。	-0.13940	0.55705	0.37629	0.471333
T 24. 体育の授業は健全な健康観の形成に役立つ。	0.27987	0.49142	0.48778	0.557748
T 2. 体育の授業を通して健康で機能的な身体作りをはかっている。	0.37954	0.46976	0.14811	0.386663
T 26. 体育のできる生徒は他の場面でも自信を持つことができる。	0.17539	0.40797	0.25501	0.262231
T 5. 体育の授業では精神的なたくましさを作ることも教育目標である。	0.11778	0.39766	0.14517	0.193078
T 8. 体育の授業では基礎体力づくりに力を入れている。	0.03562	0.39256	0.27403	0.230466
T 23. 体育の授業は他人より優れたという気持ちを形成する。	0.15228	0.35793	-0.00612	0.151341
T 18. 体育の授業は健康増進に役立っている。	0.06075	0.48383	0.52906	0.517677
T 15. 体育の授業は「生涯教育」に結びついていく。	0.23420	0.00738	0.50575	0.310686
T 36. 体育の授業は健全な身体観の形成に役立つ。	0.19005	0.45646	0.50234	0.496821
T 14. 体育の授業では体質に応じた指導は可能である。	0.14955	0.07105	0.44560	0.225971
T 37. 体育の授業を通して友達の健康に気づかうような態度ができる。	0.29511	0.16628	0.42943	0.299143
T 29. 怪我の予防についての指導は十分に行っている。	0.28089	0.09135	0.39488	0.243173
T 13. 体育の授業は楽しくやれるようところがけている。	0.28127	-0.02162	0.37802	0.222476
T 17. 体育の授業では協力して一つのことを行う経験を持たせる。	0.19473	0.25042	0.37458	0.240942
T 30. 体育の授業は勉強でのストレス解消に役立つ。	0.25084	0.25042	0.36029	0.255439
T 1. 体育の授業では個人プレーより集団プレーを重視している。	0.03177	0.13630	-0.13383	0.037497
T 3. 競技中の自分自身の動きを生徒に自覚させる機会が多い。	0.12726	0.20500	0.00925	0.146491
T 4. 全ての種目を男女別にする必要はない。	0.34895	0.14081	0.07000	0.058307
T 6. 体育の授業では強い、速いということは大切な評価ポイントである。	0.05336	0.34936	-0.03062	0.125836
T 10. 体育の授業は身体の個人差を強調する。	0.09049	0.24170	-0.04452	0.068588
T 11. 体育の授業では体力に応じた指導は可能である。	0.18392	0.07762	0.34784	0.160842
T 16. 体育の不得意な生徒は好ましい自己像を持ってない。	-0.14832	0.27064	-0.27450	0.170593
T 25. 体育の授業では広い空間で身体を動かすことに意義がある。	0.25046	0.30703	0.11114	0.169350
T 27. 競技では勝つことは重要な目的だ。	0.05572	0.32515	-0.04576	0.110922
T 32. 体育の授業によって身体に自信をなくす生徒がある。	-0.04063	0.09351	-0.26877	0.082634
	3.817757	3.547687	3.181981	

表9 「生徒観」関連項目の因子分析結果

	FACTOR1	FACTOR2	共通性
S 8. 健康に配慮する気持ちを持っている。	0.67265	0.01093	0.452575
S 4. 体育を教えていて手ごたえがある。	0.60394	- 0.25620	0.430385
S 7. 身体を鍛えようとする意欲がある。	0.58441	- 0.22687	0.393004
S 14. 保健の授業に意欲を示す。	0.54795	- 0.09326	0.308951
S 11. 美しい身体を持っている。	0.49635	0.05973	0.249926
S 22. 感性が豊かである。	0.46261	0.07934	0.220301
S 2. 体力がある。	0.38889	- 0.10087	0.161411
S 1. 訓練に耐える根性がない。	- 0.37576	0.26559	0.211735
S 15. 保健の内容の持つ重要さを理解していない。	- 0.38901	0.19487	0.189306
S 18. 体育が嫌いな生徒が多い。	- 0.43435	0.29807	0.277503
S 5. 心と身体の結びつきに気づいていない。	- 0.47024	0.27324	0.295783
S 12. 外見を飾ろうとする。	- 0.06911	0.77344	0.602982
S 10. 技術より服装、身だしなみを気にする。	- 0.17057	0.71833	0.545089
S 9. 外見の美しさを競う。	0.02629	0.62694	0.393739
S 20. ファッションには敏感である。	- 0.02587	0.56558	0.320545
S 17. 過程より結果にこだわる。	- 0.18657	0.42162	0.212570
S 6. 病気をしやすい。	- 0.38061	0.39198	0.298516
S 3. 流行のスポーツに目を奪われる。	0.00093	0.29413	0.086513
S 13. 強く、速い身体に対する憧れがある。	0.22149	0.12436	0.064523
S 16. スポーツマンには人気がない。	- 0.15697	0.03946	0.026197
S 19. 身体の有効な使い方を知らない。	- 0.31265	0.30358	0.189914
S 21. 自分の体力の把握ができていない。	- 0.30695	0.32414	0.199284
	3.253466	2.877285	

ジ」、第2因子は「ファッション性」と命名した。この結果から保健科、体育科と同様の基準で2つの尺度を構成した。各尺度の信頼性係数は、第1尺度が11項目からなり.817、第2尺度は5項目からなり.762と、信頼性は高い。表9にその内訳を因子負荷量とあわせて示す。

## (2) 尺度別検討

上のようにして見いだされた尺度のレベルで、保健体育科教師の意見、態度の傾向性を検討する。なお、検討にあたっては、教職経験年数別、性別という次元をいれた。

検討のための資料作成の手続きは次の通りである。まず、個々の回答者の回答を、評定尺度の段階に応じて数値化し(すなわち、質問内容に対し、ポジティブな方向の回答に4点、続いて3点、2点、そして最もネガティブな方向の回答に1点をあたえる。ただし、因子負荷量がマイナスの項目は得点を逆転させる)、続いて各尺度に属する項目の回答得点の合計を項目数で割った平均値を算出する。これを回答者全員について行い、さらに、教職経験で10年を区切りに3段階、性別で2カテゴリーに分けて、それぞれの条件に当てはまる回答者個々の平均値を合計し、それを人数で割った平均値と標準偏差を求めた。なお、ここで分析した回答者の内訳は表10に示す。

上記の手続きで得た結果は、表11にまとめて示した。中立的な回答では、平均値が2.50である。「全体」の欄による、各領域、各尺度の結果は次のようであった。



表 10 教職経験年数×性別の分析対象資料数

教職経験年数 性別		1 ≤ 年数 < 10		10 ≤ 年数 < 20		20 ≤ 年数 < 30		TOTAL	
		資料数	% (全体)	資料数	% (全体)	資料数	% (全体)	資料数	% (全体)
男	資料数	34	20.24	37	22.02	53	31.55	124	73.81
	% (横)	27.42		29.84		42.74			
	% (縦)	73.91		72.55		74.65			
	% (全体)								
女	資料数	12	7.14	14	8.33	18	10.71	44	26.19
	% (横)	27.27		31.82		40.91			
	% (縦)	26.09		27.45		25.35			
	% (全体)								
TOTAL		46	27.38	51	30.36	71	42.26	168	100.00

表 11 教職経験年数×性別での各尺度の合成得点の平均値

尺度	全体	1 ≤ 年数 < 10				10 ≤ 年数 < 20				20 ≤ 年数 < 30					
		性別		性別		性別		性別		性別		性別			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
		平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD		
保健科	指導内容の工夫	2.96	0.52	2.64	0.45	2.88	0.54	2.85	0.51	3.03	0.40	3.20	0.49	3.19	0.50
	保健科への批判	2.71	0.48	2.81	0.49	2.44	0.37	2.69	0.48	2.68	0.47	2.75	0.47	2.69	0.54
	保健科の有用性	3.26	0.49	3.23	0.47	3.15	0.56	3.25	0.53	3.13	0.45	3.37	0.49	3.27	0.42
体育科	指導内容の工夫	2.60	0.52	2.35	0.63	2.71	0.50	2.52	0.49	2.63	0.30	2.71	0.44	2.93	0.60
	練成的目標論	3.06	0.45	3.06	0.46	3.06	0.43	3.08	0.43	2.79	0.38	3.16	0.47	3.05	0.49
	体育科の有用性	3.28	0.42	3.22	0.47	3.30	0.39	3.24	0.44	3.21	0.29	3.39	0.39	3.35	0.42
生徒観	肯定的イメージ	2.60	0.42	2.43	0.47	2.59	0.36	2.66	0.40	2.66	0.36	2.59	0.47	2.74	0.31
	ファッション性	3.26	0.55	3.34	0.59	3.44	0.42	3.24	0.60	3.22	0.48	3.22	0.57	3.21	0.44

保健科の「指導内容の工夫」は、それをしているという方向の回答がやや多い結果であった。それに対して「保健科への批判」は、わずかながら批判的方向、すなわち 2.50 より値は大きいものの、それに近い結果が見られた。「保健科の有用性」では、それを強く認める方向の結果が見られた。体育科の「指導内容の工夫」では、中立に非常に近い値が見られ、必ずしも工夫が多く行われているわけではないという結果が見られた。「練成的目標論」では、その方向の回答が比較的多い結果が見られた。「体育科の有用性」はそれを認める方向の回答が多い。生徒観では、「肯定的イメージ」については中立に近い値が見られた。一方、「ファッション性」ではそれを認める方向の回答が多い結果が見られた。

また、この結果について、領域ごとに、教職経験年数と性別の 2 要因の分散分析を行なった。保健科については表 12 に、体育科については表 13 に、生徒観については表 14 にその結果を示した。

表 12 「保健科」の3因子性別×教職経験年数の分散分析の結果

第1因子				
変動因	自由度	平方和	F 値	PR>F
性別	1	0.68382034	2.94	0.0881
教職経験年数	2	4.17442029	8.97	0.0002
性別×教職経験年数	2	0.38958672	0.84	0.4344
ERROR	186	43.25593729		
CORRECTED TOTAL	191	51.49382716		
第2因子				
変動因	自由度	平方和	F 値	PR>F
性別	1	0.67986433	3.00	0.0852
教職経験年数	2	0.17022775	0.37	0.6878
性別×教職経験年数	2	0.76076317	1.68	0.1900
ERROR	186	42.21712093		
CORRECTED TOTAL	191	43.43155924		
第3因子				
変動因	自由度	平方和	F 値	PR>F
性別	1	0.36736182	1.51	0.2214
教職経験年数	2	0.59354238	1.22	0.2987
性別×教職経験年数	2	0.01438278	0.03	0.9710
ERROR	192	46.85942585		
CORRECTED TOTAL	197	48.12528058		

**保健科** 保健科第1尺度の「指導内容の工夫」では、教職経験年数の主効果が有意であり (F=8.97, p<.01)、性別の主効果は傾向として (F=2.94, p<.10) 認められた。すなわち、教職経験年数が長いほど保健の指導内容に工夫を加えており、女性教師の方が男性教師より工夫をしている傾向があるという結果が見られたのである。

第2尺度の「保健科への批判」では、性別の主効果にのみ傾向性が認められ (F=3.00, p<.10)、男性教師に保健科の授業に対する批判的態度、意見がやや多いという示唆が得られた。

第3尺度の「保健科の有用性」では有意な差は認められず、この尺度については教職経験年数や性別で回答が異なるということはなかったのである。

なお、3尺度総てで、教職経験年数と性別との交互作用の効果は認められなかった。

**体育科** 体育科第1尺度の「指導内容の工夫」では、教職経験年数でも (F=4.71, p<.01)、性別でも (F=7.57, p<.01) 有意な主効果が見られた。すなわち、保健科の時と同様、教職経験年数の長い教師ほど、体育科の指導内容に多く工夫を加えているという回答が多く、また、女性教師の方が男性教師よりも工夫をするという回答が多いという結果が示されたのである。

第2尺度の「錬成的目標論」は、有意ではなかったが、教職経験年数の主効果が傾向として (F=2.38 p<.10)、また、性別の主効果も傾向として (F=3.00 P<.10) 認められた。体育科の指導目標に錬成的な意義を認める者は教職経験年数の長い者にやや多く、しかも女性教師に比べて男性教師に

表 13 「体育科」の3因子の性別×教職経験年数の分散分析の結果

第1因子				
変動因	自由度	平方和	F 値	PR > F
性別	1	1.869300096	7.57	0.0065
教職経験年数	2	2.32243899	4.71	0.0102
性別×教職経験年数	2	0.37406886	0.76	0.4701
ERROR	185	45.65501801		
CORRECTED TOTAL	190	50.75987331		
第2因子				
変動因	自由度	平方和	F 値	PR > F
性別	1	0.59729109	3.00	0.0851
教職経験年数	2	0.94784907	2.38	0.0955
性別×教職経験年数	2	0.52732220	1.32	0.2688
ERROR	185	36.86183364		
CORRECTED TOTAL	190	39.10762071		
第3因子				
変動因	自由度	平方和	F 値	PR > F
性別	1	0.00005916	0.00	0.9952
教職経験年数	2	0.64702467	1.89	0.1541
性別×教職経験年数	2	0.09658772	0.28	0.7546
ERROR	188	32.20048115		
CORRECTED TOTAL	193	33.28375970		

表 14 「生徒観」の2因子の性別×教職経験年数の分散分析の結果

第1因子				
変動因	自由度	平方和	F 値	PR > F
性別	1	0.37732553	2.14	0.1454
教職経験年数	2	0.63142217	1.79	0.1701
性別×教職経験年数	2	0.20738633	0.59	0.5568
ERROR	188	33.18792260		
CORRECTED TOTAL	193	34.82048224		
第2因子				
変動因	自由度	平方和	F 値	PR > F
性別	1	0.02284941	0.07	0.7865
教職経験年数	2	0.72286529	1.16	0.3145
性別×教職経験年数	2	0.07217833	0.12	0.8904
ERROR	191	59.32177906		
CORRECTED TOTAL	196	60.08324873		

やや多い傾向があることを示している。

第3尺度の「体育科の有用性」では、有意な効果は認められなかった。教職経験年数、性別による、この領域の事項に関する意見、態度に大きな差は認められない結果であった。なお、保健科の場合と

同様、3尺度総てで、教職経験年数と性別との交互作用の効果は認められなかった。

生徒観 生徒観に関する項目では、第1尺度の「肯定的イメージ」、第2尺度の「ファッション性」のいずれも、有意な主効果、交互作用効果を見いだすことはできなかった。生徒観については、教師の経験年数、性別による意見、態度の違いが少ないことが示されたのである。

表 15 「保健科」関連項目への回答の平均値

	全体		性別			
			男		女	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD
H 1. 保健の授業は健全な身体形成に役立つ	3.46	0.65	3.48	0.64	3.43	0.66
H 2. 保健の授業は身体個人差に気付かせるという機会となる	3.14	0.75	3.24	0.72	2.88	0.76
H 3. 私が今使っている教科書の内容は生徒にとって難しい	2.55	0.87	2.60	0.86	2.40	0.86
H 4. 私は健康的な美とは何かについて保健の授業で話すことがある	3.02	0.95	2.92	0.99	3.30	0.78
H 5. 健全な精神は健全な肉体に宿るとの考えは保健の基礎となる考えの1つだ	3.49	0.77	3.51	0.79	3.43	0.74
H 6. 私は職業と健康の関係についての解説をしている	3.41	0.79	3.37	0.84	3.51	0.63
H 7. 私は高齢者の健康についての解説をしている	3.06	0.91	2.98	0.94	3.26	0.79
H 8. 保健の授業は生徒の自己理解に役立っている	3.09	0.72	3.09	0.74	3.09	0.69
H 9. 私が今使っている教科書は保健と政治との関わりについての内容が不足している	2.68	0.90	2.66	0.91	2.71	0.89
H 10. 私は健康保持のための運動をするように生徒に勧めている	3.76	0.52	3.76	0.54	3.77	0.46
H 11. 私が今使っている教科書は保健の学習に必要な内容を十分含んでいる	2.92	0.78	2.98	0.79	2.75	0.76
H 12. 保健の授業では生徒が自分の身体と保健の学習内容を具体的に照らし合わせる機会がない	2.69	0.84	2.71	0.83	2.63	0.86
H 13. 私が今使っている教科書は保健と社社との関わりについての内容が不足している	2.55	0.81	2.57	0.81	2.48	0.81
H 14. 私が今使っている教科書では保健で形成すべき学力とは何かが不明瞭である	2.65	0.85	2.70	0.84	2.49	0.86
H 15. 保健の授業では生徒が自分の心理と身体との関わりを考える機会がない	2.29	0.86	2.27	0.85	2.35	0.88
H 16. 私は保健の授業では最近の健康ブームは批判的に扱う	1.89	0.68	1.89	0.70	1.89	0.62
H 17. 健康と環境問題は深く関わっている	3.76	0.50	3.72	0.53	3.84	0.41
H 18. 私は健康保持のための運動を実際に生徒に指導している	3.19	0.90	3.24	0.85	3.05	1.01
H 19. 私は健康増進に役立つ情報は努めて生徒に知らせている	3.36	0.72	3.34	0.74	3.39	0.68
H 20. 生徒にとって自分の身体をよく知るとのこと大切なことだ	3.95	0.23	3.94	0.24	3.96	0.19
H 21. 私が今使っている教科書は心理学的な内容が不足している	2.92	0.77	2.95	0.77	2.82	0.77
H 22. 人間の身体は基本的には同じだという考えをもたせる必要がある	3.19	0.83	3.20	0.81	3.15	0.89
H 23. 保健の指導に自信をもっている教師が多い	2.22	0.73	2.24	0.74	2.18	0.68
H 24. 私は生徒に健康増進に役立つ情報の集め方を教えている	2.31	0.84	2.31	0.81	2.33	0.91
H 25. 保健の授業では教育内容、方法で男女を分ける必要はない	3.51	0.79	3.50	0.81	3.54	0.76
H 26. 保健の授業は生徒の健康増進に役立つ	3.22	0.76	3.28	0.73	3.05	0.83
H 27. 保健の授業は健全な健康観の形成に役立つ	3.31	0.65	3.32	0.63	3.30	0.71
H 28. 化粧、服装などは身体に対する意識を高める	2.22	0.84	2.19	0.88	2.29	0.70
H 29. 保健教材に関する知識を十分にもっている教師が多い	2.37	0.72	2.32	0.68	2.49	0.79
H 30. 保健の授業教材の内容の習得が中心となっている	2.90	0.74	2.89	0.74	2.93	0.74
H 31. 私は医療制度についての指導を生徒にしている	2.41	0.85	2.41	0.84	2.44	0.87
H 32. 保健の授業は生涯にわたる健康への態度づくりに役立つ	3.35	0.69	3.36	0.71	3.32	0.66
H 33. 私は保健の授業で健康食品についてとりあげる	2.67	1.03	2.63	1.05	2.80	0.94
H 34. 保健の指導法の研究は停滞している	2.79	0.81	2.84	0.78	2.64	0.88
H 35. 私が今使っている教科書は保健を前向きに考える態度を生徒の中に形成させようとしていない	2.33	0.81	2.32	0.78	2.36	0.89
H 36. 私は健康と美とは結びつくものとして教える	3.16	0.83	3.11	0.87	3.30	0.71
H 37. 私は身体の訓練は健康に結びつくものとして教える	3.31	0.75	3.40	0.75	3.07	0.71

### (3) 項目別結果

項目別の結果は、保健科に関するものは表 15 に、体育科に関するものは表 16 に、生徒観に関するものは表 17 に、回答者全員と、性別の結果を示した。さらに、表 18 から 20 では、保健科、体育科、生徒観について、教職経験年数と性別をクロスした結果も示した。

表 16 「体育科」関連項目への回答の平均値

	全体		性別			
			男		女	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD
T 1. 体育の授業では個人プレーより集団プレーを重視している	2.93	0.91	2.93	0.95	2.93	0.83
T 2. 体育の授業を通して健康で機能的な身体づくりをはかっている	3.31	0.69	3.34	0.69	3.23	0.68
T 3. 競技中の自分自身の動きを生徒に自覚させる機会が多い	2.88	0.75	2.97	0.76	2.64	0.68
T 4. すべての種目を男女別にする必要はない	2.52	1.08	2.53	1.08	2.49	1.07
T 5. 体育の授業では精神的なたくましさを作ることも教育目標である	3.51	0.71	3.52	0.73	3.47	0.68
T 6. 体育の授業では強い、速いということは大切な評価ポイントである	2.66	0.83	2.68	0.87	2.59	0.73
T 7. 体育の授業は体力増進に役立っている	3.10	0.76	3.19	0.75	2.88	0.76
T 8. 体育の授業では基礎体力づくりに力を入れている	3.00	0.76	3.10	0.76	2.73	0.70
T 9. 競技中の仲間の動きを観察させる機会が多い	2.88	0.71	2.85	0.72	2.95	0.67
T 10. 体育の授業は身体の個人差を強調する	2.52	0.82	2.55	0.86	2.43	0.74
T 11. 体育の授業では体力に応じた指導は可能である	3.01	0.81	3.10	0.80	2.79	0.80
T 12. 訓練された人の身体の美しさに気づかせる機会が多い	2.48	0.86	2.39	0.86	2.71	0.81
T 13. 体育の授業は楽しくやれるようにこころがけている	3.50	0.65	3.50	0.67	3.52	0.60
T 14. 体育の授業では体質に応じた指導は可能である	2.83	0.78	2.84	0.79	2.81	0.75
T 15. 体育の授業は「生涯教育」に結びついていく	3.20	0.77	3.19	0.79	3.21	0.73
T 16. 体育の不得意な生徒は好ましい自己像をもてない	2.20	0.82	2.22	0.85	2.14	0.75
T 17. 体育の授業では協力して一つのことを行う経験をもたせる	3.64	0.52	3.65	0.52	3.60	0.53
T 18. 体育の授業は健康増進に役立っている	3.32	0.73	3.40	0.71	3.09	0.74
T 19. 生徒には身体を厳しく鍛えることを求めている	2.73	0.82	2.80	0.83	2.55	0.76
T 20. 運動の力学的特性についての指導を十分行っている	2.56	0.75	2.58	0.79	2.52	0.63
T 21. 運動の心理的特性についての指導を十分行っている	2.66	0.69	2.68	0.71	2.59	0.63
T 22. 体育の指導法の研究はよく行われている	2.89	0.76	2.88	0.79	2.91	0.69
T 23. 体育の授業は他人より優れたという気持ちを形成する	2.52	0.77	2.55	0.77	2.45	0.77
T 24. 体育の授業は健全な健康観の形成に役立つ	3.06	0.72	3.10	0.76	2.96	0.60
T 25. 体育の授業では広い空間で身体を動かすことに意義がある	3.25	0.76	3.22	0.79	3.34	0.67
T 26. 体育のできる生徒は他の外面でも自信をもつことができる	3.14	0.78	3.14	0.80	3.14	0.75
T 27. 競技では勝つことは重要な目的だ	3.10	0.78	3.17	0.78	2.91	0.75
T 28. 体育の授業ではエアロビクスなどフィットネスの視点をとり入れている	2.20	1.02	1.97	0.92	2.79	1.03
T 29. けがの予防についての指導は十分に行っている	3.56	0.64	3.58	0.65	3.51	0.63
T 30. 体育の授業は勉強でのストレス解消に役立つ	3.24	0.67	3.24	0.68	3.23	0.66
T 31. 運動の生理的的特性についての指導を十分行っている	2.67	0.77	2.68	0.79	2.63	0.70
T 32. 体育の授業によって身体に自信をなくす生徒がある	2.34	0.81	2.35	0.85	2.34	0.72
T 33. 体育の授業では身体による表現の形成をめざしている	2.62	0.78	2.51	0.78	2.89	0.70
T 34. 体育の授業を通して身体美を考えさせている	2.42	0.76	2.32	0.77	2.70	0.65
T 35. 生徒の身体をよりたくましくすることも体育の授業の目的だ	3.16	0.69	3.23	0.69	2.98	0.64
T 36. 体育の授業は健全な身体観の形成に役立つ	3.13	0.73	3.15	0.78	3.07	0.59
T 37. 体育の授業を通して友だちの健康を気づかうような態度ができる	3.07	0.72	3.01	0.75	3.25	0.61

先の(3)の後半で、尺度別に回答傾向については検討しており、個々の項目におおしてまでの検討はここでは行わない。資料を示すにとどめる。

#### (4) 自由記述の内容

調査では、「最近の生徒の持つ身体観、身体文化についてお気づきのことがあればぜひお書きください」という設問で自由記述を求め、91の回答を得た。その内容をカテゴライズし、ケース数に具体的内容例をつけて、結果を表21に示した。内容が多領域にわたる場合は、一人の回答を複数回カウントするため、ケース数の合計は91より多い。

ここで見られた結果では、髪型の乱れを気にするとか、スリム志向といった「見かけ志向」の強さと、疲れるようなことや努力を嫌う「安楽志向」の強さをあげる者が多いことが示された。これらは、因子分析に基づいて検討した結果とも軌を一にする結果である。そのほかには、「体力が劣る」、「活動内容がアンバランス」、「健康管理がルーズ」、「文化依存的」、「無関心」が、10を越える。総じて、ネガティブな方向の記述が多い。ポジティブな方向の回答は「その他」にカテゴライズされた、少数のケースで見られたに過ぎない。ただ、ポジティブな方向の回答の中に、偏差値の高いいわゆる進学校であるからといった含みの記述が見られたのは興味深かった。

表17 「生徒観」関連項目への回答の平均値

	全体		性別			
			男		女	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD
S 1. 訓練に耐える根性がない	3.18	0.82	3.20	0.86	3.12	0.68
S 2. 体力がある	1.98	0.64	1.97	0.69	2.02	0.48
S 3. 流行のスポーツに目を奪われる	3.04	0.80	3.12	0.81	2.82	0.76
S 4. 体育を教えていて手ごたえがある	2.41	0.81	2.42	0.86	2.38	0.68
S 5. 心と身体の結びつきに気づいていない	2.90	0.78	2.96	0.77	2.74	0.77
S 6. 病気をしやすい	2.82	0.86	2.93	0.88	2.53	0.73
S 7. 身体を鍛えようとする意欲がある	2.14	0.72	2.16	0.77	2.09	0.61
S 8. 健康に配慮する気持ちをもっている	2.27	0.71	2.24	0.73	2.35	0.67
S 9. 外見の美しさを競う	2.97	0.88	2.92	0.93	3.09	0.72
S 10. 技術より服装、身だしなみを気にする	3.17	0.83	3.16	0.87	3.21	0.71
S 11. 美しい身体をもっている	2.20	0.63	2.13	0.62	2.39	0.62
S 12. 外見を飾ろうとする	3.29	0.78	3.29	0.83	3.32	0.66
S 13. 強く、速い身体に対する憧れがある	2.89	0.82	2.99	0.84	2.62	0.71
S 14. 保健の授業に意欲を示す	2.10	0.74	2.05	0.75	2.23	0.71
S 15. 保健の内容のもつ重要性を理解していない	2.75	0.80	2.79	0.82	2.65	0.74
S 16. スポーツマンには人気がない	1.86	0.77	1.87	0.78	1.82	0.77
S 17. 過程より結果にこだわる	3.20	0.77	3.26	0.75	3.05	0.79
S 18. 体育が嫌いな生徒が多い	2.24	0.77	2.20	0.78	2.35	0.74
S 19. 身体の有効な使い方を知らない	3.15	0.68	3.15	0.71	3.14	0.61
S 20. ファッションには敏感である	3.60	0.57	3.59	0.60	3.61	0.49
S 21. 自分の体力の把握ができていない	3.17	0.65	3.20	0.65	3.09	0.67
S 22. 感性が豊かである	2.56	0.80	2.56	0.81	2.55	0.77

表 18 「保健科」関連項目への回答の教職経験年数別・性別集計

	1 ≤年数 < 10				10 ≤年数 < 20				20 ≤年数 < 30			
	性別				性別				性別			
	男		女		男		女		男		女	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
H 1.	3.35	0.65	3.50	0.67	3.42	0.73	3.46	0.59	3.62	0.53	3.33	0.77
H 2.	3.09	0.79	2.67	0.78	3.25	0.66	2.88	0.73	3.34	0.71	3.06	0.80
H 3.	2.35	0.92	2.42	1.08	2.64	0.81	2.36	0.81	2.70	0.82	2.50	0.86
H 4.	2.38	1.02	2.82	1.08	2.88	1.01	3.28	0.68	3.32	0.73	3.61	0.61
H 5.	3.47	0.86	3.58	0.67	3.40	0.82	3.50	0.66	3.64	0.71	3.28	0.89
H 6.	3.09	1.00	3.67	0.49	3.29	0.88	3.48	0.71	3.60	0.63	3.44	0.62
H 7.	2.65	1.07	3.17	0.94	2.91	0.92	3.28	0.84	3.26	0.81	3.33	0.69
H 8.	3.00	0.74	2.92	0.67	3.10	0.74	3.08	0.76	3.13	0.73	3.22	0.65
H 9.	2.61	1.06	2.36	0.81	2.68	0.98	2.72	0.89	2.68	0.75	2.89	0.90
H 10.	3.79	0.54	3.58	0.67	3.72	0.56	3.88	0.33	3.75	0.55	3.72	0.46
H 11.	2.76	0.82	2.92	0.51	3.05	0.74	2.72	0.84	3.04	0.81	2.72	0.83
H 12.	2.76	0.89	2.17	0.72	2.71	0.82	2.64	0.81	2.68	0.78	2.88	0.93
H 13.	2.58	0.94	2.25	0.62	2.50	0.78	2.48	0.71	2.66	0.76	2.59	1.00
H 14.	2.76	0.85	2.50	0.90	2.67	0.78	2.52	0.82	2.70	0.87	2.31	0.87
H 15.	2.21	0.95	2.00	0.74	2.17	0.82	2.40	0.82	2.42	0.82	2.44	0.98
H 16.	1.71	0.58	1.75	0.62	1.81	0.69	1.84	0.62	2.11	0.75	2.00	0.61
H 17.	3.79	0.41	3.75	0.45	3.72	0.59	3.84	0.47	3.68	0.55	3.94	0.24
H 18.	3.21	0.88	2.92	1.24	3.14	0.83	2.92	0.95	3.38	0.81	3.39	0.92
H 19.	3.26	0.75	3.33	0.89	3.24	0.78	3.42	0.58	3.51	0.67	3.39	0.70
H 20.	3.97	0.17	4.00	0.00	3.90	0.31	3.92	0.28	3.96	0.19	4.00	0.00
H 21.	3.03	0.76	2.58	1.00	2.96	0.82	3.00	0.58	2.89	0.72	2.76	0.83
H 22.	3.09	0.75	3.09	0.70	3.20	0.86	2.86	1.06	3.31	0.73	3.50	0.71
H 23.	2.15	0.70	2.25	0.75	2.07	0.67	2.20	0.71	2.49	0.80	2.06	0.64
H 24.	2.12	0.77	2.25	0.97	2.19	0.74	2.08	0.86	2.56	0.85	2.61	0.85
H 25.	3.18	1.00	3.33	0.65	3.50	0.80	3.52	0.87	3.69	0.62	3.67	0.69
H 26.	3.21	0.73	3.08	0.79	3.26	0.71	2.92	0.91	3.36	0.76	3.17	0.79
H 27.	3.35	0.60	3.33	0.78	3.24	0.66	3.24	0.78	3.38	0.63	3.39	0.61
H 28.	2.03	0.97	2.00	0.63	2.27	0.88	2.45	0.67	2.23	0.82	2.31	0.70
H 29.	2.29	0.68	3.00	0.77	2.16	0.62	2.33	0.76	2.51	0.72	2.39	0.78
H 30.	2.56	0.89	2.92	0.79	3.00	0.68	2.96	0.73	2.94	0.65	2.94	0.75
H 31.	2.18	0.90	2.00	0.74	2.24	0.76	2.52	0.87	2.72	0.82	2.56	0.92
H 32.	3.35	0.73	3.42	0.79	3.31	0.73	3.16	0.62	3.42	0.69	3.44	0.62
H 33.	2.21	1.09	2.17	0.83	2.50	1.00	2.92	0.88	3.06	0.96	3.00	0.97
H 34.	2.97	0.90	2.73	0.90	2.81	0.77	2.44	0.92	2.83	0.68	2.83	0.86
H 35.	2.41	0.92	2.09	0.83	2.34	0.76	2.38	0.92	2.28	0.72	2.44	0.86
H 36.	2.65	0.92	3.36	0.81	3.14	0.86	3.20	0.71	3.40	0.69	3.39	0.70
H 37.	3.15	0.86	2.92	1.00	3.40	0.73	3.21	0.59	3.55	0.67	3.00	0.69

表 19 「体育科」関連項目の回答の教職経験数別・性別集計

	1 ≤年数 < 10				10 ≤年数 < 20				20 ≤年数 < 30			
	性別				性別				性別			
	男		女		男		女		男		女	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
T 1.	2.85	1.05	3.09	0.83	2.84	0.93	2.76	0.88	3.04	0.89	2.94	0.73
T 2.	3.24	0.74	3.25	0.62	3.34	0.64	3.04	0.73	3.35	0.72	3.39	0.61
T 3.	3.03	0.87	2.58	0.67	2.86	0.76	2.52	0.71	3.04	0.66	2.82	0.64
T 4.	2.38	1.04	2.50	1.09	2.43	1.09	2.56	1.16	2.75	1.09	2.33	0.97
T 5.	3.50	0.75	3.92	0.29	3.50	0.78	3.40	0.76	3.53	0.67	3.22	0.65
T 6.	2.47	0.75	2.58	0.67	2.70	0.87	2.68	0.80	2.82	0.95	2.53	0.72
T 7.	3.15	0.78	2.92	0.90	3.17	0.75	2.80	0.71	3.29	0.70	2.94	0.83
T 8.	3.09	0.75	2.92	0.67	3.10	0.74	2.48	0.65	3.16	0.76	3.00	0.71
T 9.	2.79	0.81	2.82	0.75	2.79	0.62	2.76	0.52	2.98	0.77	3.22	0.73
T 10.	2.50	0.86	2.67	0.65	2.43	0.82	2.50	0.66	2.71	0.88	2.22	0.81
T 11.	3.06	0.81	2.83	0.83	3.05	0.87	2.72	0.84	3.14	0.72	2.82	0.73
T 12.	2.18	0.94	2.82	0.87	2.40	0.90	2.64	0.86	2.55	0.73	2.71	0.77
T 13.	3.38	0.74	3.58	0.51	3.48	0.68	3.40	0.71	3.65	0.52	3.65	0.49
T 14.	2.88	0.81	3.00	0.74	2.78	0.84	2.74	0.75	2.90	0.70	2.76	0.83
T 15.	3.21	0.77	3.00	0.60	3.10	0.85	3.20	0.82	3.30	0.74	3.53	0.51
T 16.	2.41	0.89	2.33	0.89	2.17	0.86	2.12	0.73	2.12	0.77	2.06	0.73
T 17.	3.65	0.49	3.58	0.51	3.66	0.55	3.60	0.58	3.65	0.52	3.56	0.51
T 18.	3.24	0.78	3.25	0.62	3.36	0.69	3.08	0.70	3.59	0.64	3.00	0.91
T 19.	2.68	1.01	2.75	0.75	2.79	0.74	2.42	0.58	2.90	0.81	2.72	0.89
T 20.	2.47	0.93	2.55	0.52	2.53	0.78	2.40	0.58	2.71	0.64	2.72	0.75
T 21.	2.56	0.82	2.58	0.51	2.64	0.72	2.54	0.59	2.82	0.60	2.67	0.77
T 22.	2.68	0.77	3.00	0.77	2.91	0.84	2.80	0.71	2.94	0.73	3.00	0.69
T 23.	2.47	0.93	2.36	0.67	2.52	0.66	2.42	0.83	2.63	0.80	2.50	0.79
T 24.	2.91	0.83	2.92	0.67	3.05	0.71	2.80	0.50	3.27	0.75	3.22	0.65
T 25.	3.09	0.83	3.42	0.67	3.19	0.80	3.32	0.56	3.31	0.76	3.29	0.85
T 26.	3.18	0.72	3.33	0.65	3.05	0.83	2.96	0.73	3.22	0.76	3.24	0.83
T 27.	3.06	0.89	2.83	0.72	3.23	0.66	3.04	0.68	3.16	0.86	2.94	0.75
T 28.	1.74	0.83	3.08	1.16	2.03	0.92	2.48	1.00	2.10	0.96	3.06	0.94
T 29.	3.38	0.70	3.58	0.51	3.53	0.71	3.32	0.75	3.75	0.52	3.72	0.46
T 30.	3.21	0.77	3.25	0.62	3.16	0.64	3.20	0.65	3.41	0.57	3.33	0.69
T 31.	2.38	0.89	2.58	0.79	2.60	0.72	2.56	0.58	2.96	0.71	2.78	0.81
T 32.	2.56	0.79	2.83	0.83	2.29	0.79	2.29	0.62	2.27	0.91	2.11	0.68
T 33.	2.21	0.88	2.42	0.79	2.55	0.78	2.80	0.58	2.71	0.64	3.28	0.57
T 34.	2.12	0.88	2.42	0.67	2.26	0.66	2.64	0.49	2.51	0.76	3.00	0.77
T 35.	3.29	0.80	3.00	0.74	3.14	0.69	2.96	0.61	3.27	0.63	3.06	0.64
T 36.	3.00	0.85	3.00	0.60	3.10	0.74	3.00	0.50	3.29	0.78	3.28	0.67
T 37.	3.00	0.78	3.42	0.67	2.97	0.72	3.16	0.47	3.02	0.78	3.33	0.69



表 20 「生徒観」関連項目への回答の教職経験年数別・性別集計

	1 ≤年数< 10				10 ≤年数< 20				20 ≤年数< 30			
	性別				性別				性別			
	男		女		男		女		男		女	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
S 1.	3.29	0.80	3.25	0.75	3.00	0.92	3.12	0.67	3.40	0.77	2.94	0.64
S 2.	1.82	0.63	1.92	0.51	2.07	0.72	2.00	0.58	1.94	0.69	2.11	0.32
S 3.	3.12	0.88	3.08	0.67	3.00	0.84	2.76	0.78	3.26	0.71	2.72	0.83
S 4.	2.15	0.82	2.33	0.65	2.48	0.82	2.40	0.71	2.53	0.87	2.47	0.62
S 5.	2.88	0.84	2.75	0.75	2.93	0.70	2.88	0.78	3.04	0.81	2.50	0.71
S 6.	2.91	0.87	3.00	0.74	2.79	0.91	2.64	0.57	3.06	0.84	2.06	0.73
S 7.	2.03	0.80	2.00	0.43	2.19	0.74	2.12	0.67	2.21	0.74	2.17	0.62
S 8.	2.03	0.76	2.33	0.89	2.24	0.63	2.28	0.61	2.38	0.79	2.44	0.62
S 9.	3.00	0.95	3.17	0.72	3.05	0.87	3.12	0.78	2.81	0.93	3.06	0.64
S 10.	3.15	0.89	3.55	0.52	3.10	0.85	3.20	0.71	3.25	0.90	3.06	0.73
S 11.	2.06	0.60	2.50	0.80	2.07	0.59	2.24	0.52	2.25	0.66	2.56	0.62
S 12.	3.53	0.75	3.50	0.67	3.30	0.76	3.32	0.69	3.21	0.84	3.17	0.62
S 11.	2.91	0.97	2.50	0.67	3.21	0.69	2.67	0.76	2.83	0.83	2.67	0.69
S 14.	1.82	0.58	2.17	0.83	2.14	0.78	2.24	0.72	2.13	0.79	2.33	0.59
S 15.	3.15	0.78	2.67	0.89	2.66	0.71	2.76	0.72	2.72	0.86	2.56	0.62
S 16.	1.76	0.82	1.67	0.65	1.88	0.75	1.84	0.80	1.88	0.73	1.89	0.83
S 17.	3.35	0.73	3.08	0.79	3.21	0.72	3.00	0.76	3.26	0.79	3.06	0.87
S 18.	2.26	0.86	2.67	0.78	2.16	0.74	2.08	0.57	2.21	0.77	2.44	0.86
S 19.	3.24	0.65	3.25	0.75	3.14	0.66	3.12	0.44	3.12	0.78	3.11	0.76
S 20.	3.68	0.53	3.83	0.39	3.55	0.63	3.48	0.51	3.60	0.63	3.72	0.46
S 21.	3.18	0.67	3.05	0.79	3.17	0.68	3.04	0.68	3.25	0.62	3.17	0.62
S 22.	2.35	0.85	2.09	0.70	2.72	0.75	2.84	0.85	2.55	0.80	2.41	0.51

## 考 察

この調査で明らかにされた事項の整理と、それに基づく考察を、保健科の授業、体育科の授業、生徒観の3領域別に行う。

**保健科** 保健科の授業は、生理学、心理学、医学、環境科学、社会政策、公衆衛生といったさまざまな学問領域の成果を統合的に扱う内容となっている。しかもそれらは、生徒の社会化に際しての重要な実学的意義をもっている。このような、重要にして困難な教科の指導に際して、教師は一定の指導上の工夫を行っていることが示された。保健科という授業の有用性については、多くの回答者がそれを認めている。一方、現状のカリキュラムに問題があるという回答は中立に近い値を示した。この結果をそのまま読めば、「保健科の授業は、現状のカリキュラムに多少問題が感じられており、ある程度の工夫を教師が個々に加えている。そしてそのような授業は実際に有用性があると考えられている」、とまとめることができるかもしれない。しかし、保健科の教科書を見れば感じられるように、保健に関する態度形成にいたる前に、知識の習得でほとんどの時間を費やしてしまうような大量の知識

表21 生徒の身体観、身体文化に関する自由記述結果

カテゴリー	ケース数	具 体 的 内 容 例
見 か け 志 向	40	髪型のみだれを気にする、スリム志向
安 楽 志 向	38	疲れることを嫌がる、汗をかきたがらない、運動が嫌い、努力しない、耐性が低い、鍛えようとしらない
体 力 が 劣 る	17	基礎体力がない、一定の姿勢を保てない、筋力が弱い
活動内容がアンバランス	15	気の向いたことしかしない、基礎的運動を嫌う
健康管理がルーズ	12	夜ふかしをする、朝食を食べない、よいことが分かっても実行しない
文化依存的	12	ファッション志向、流行の食物を無批判に食べる、マスコミ依存
無 関 心	11	興味をもたない、あきらめている、持続的に考えない、意欲がない
娯楽としてのスポーツ	9	スポーツを息抜きと考えている、スポーツを気ばらしととらえている、熱中しない、部活をしない
非 主 体 的	7	いわれないとしない、やるべきことが分かっていてもしない、競争させるとやる、規則は守る
人 並 志 向	6	競争を嫌う、目立つことを嫌う、身体表現でテレを示す、声を出さない
上達を志向しない	6	チャレンジしない、自己の可能性を追求しない
神 経 質	5	手をよく洗う、ごみに触れようとしらない、保健室の利用が多い、体育授業を休む
体のコントロール下手	5	
結 果 主 義	5	単調な訓練を嫌う、パーフェクトな結果のみを評価する
受験重視の弊害	5	体育を無視、成績と結びつけると努力する
非 集 団 性	4	チームゲームを嫌う、体を触れ合わない、協力できない
そ の 他		精神的に弱い(2)、スポーツが好き(2)、中学校での指導の格差が反映、力よりスピード重視、運動エネルギー強い、着実に努力する、新しいことへの感受性強い、美しくなるためのスポーツという捉え方、精神的な悩みを持っている、運動嫌いは減った、音楽に合わせて動くのを好む、身体差に敏感、昔同様頑張る、強いことを志向、チームゲームが好き * ( ) 内はケース数

がつめこまれ、しかも記述は難解であり、読みこなすには相当の訓練を要するような実状に対し、批判が少ないということは、調査に対してたてまえ的な回答をしたというバイアスを考慮にいれても、そこに安易な教材観が反映されているようにも思われるのである。有用性も保健科という教科の任務を考えれば高い評価がなされるのは当然であるが、有用となるように機能しているかと問えば、今回のような結果が得られたかどうかは分からない。

なお、工夫の程度で、教職経験年数が増すほどそれをする傾向が高くなるという結果が見られたが、それは、世代差ではなく、キャリアの発達に伴って常に見られるものでなくてはならないであろう。また、女性教師の方が工夫を多くする傾向が見られたが、指導の対象が大部分は女子生徒であり、実際に工夫が要求される実状がそこにあることがうかがえた。保健科に対する批判では、男性の方がやや強い傾向が見られたが、工夫の有無で見られた性差と逆の結果であることと関わりはないであろうか。

**体育科** 体育科では、「授業における指導の工夫がなされる程度は、多くも少なくもなく、教師はこの教科に対して錬成的な目標観を持ち、有用性は強く感じている」、というのが全体的な教師の傾向であった。ただ、体育科においても、生涯学習に通じる態度形成も重要な指導目標として掲げられている。工夫をそれほどせず、錬成的目標論を掲げることについては、体育科の指導が狭く捉えられ、その視野のもとでの指導が行われているのではないかという解釈の余地もあるように思われる。有用性を質問した項目では、その内容は多岐にわたっている。実際にそれらに対応した指導が行われているかについての検討も今後なされるべきであろう。

工夫の程度では、経験年数別、性別には、保健科と同様の結果が見られた。それについては保健科とほぼ同様の考察が可能であろう。錬成的目標観については、経験年数が少ない者ほど、また女性の方が弱い傾向が見られる。

**生徒観** 教師からみた生徒観は、肯定的、否定的の次元では、中立的であった。一方、ファッション的な側面が強いということについては多くの者が同意する結果であった。これらは、経験年数差、性差が見られない、全回答者の層に一律の結果であった。一方、自由記述からは、生徒の身体関連の事項で、批判的な、評価的に低い意味合いの意見が多く出された。多様な生徒について全体的にいえば偏りは少なくなるが、個別に目についたことの記述をした場合は、ややネガティブな報告が多いようである。

保健科、体育科という教科は、いわゆる主要教科と呼ばれるものからははずれている。それだけに、手を抜くか、思い通りの工夫を大胆に授業に取り入れるか、いずれも可能な教科であるともいえるのである。調査で回答者の教師にも十分意識されている、これらの教科の有用性を考慮すると、教師への期待の大きい指導領域ということができよう。青年期という発達段階を踏まえた、生徒観と、幅広い視野にたつ教材観とを持って指導に当たることにより、青年の身体文化に保健体育科の教師が及ぼしうる影響力は少なからぬものがあるように思われる。実態と、さらに可能性という観点から、今回の全体的な調査からさらに進んだ個別的な問題を設定した研究が必要である。

## 文 献

杉江修治・大橋博明・小峰総一郎・水野りか 1987 現代青年の身体文化に関する調査的研究 中京大学教養論叢、28-3、1-42.